

常なる磐

つねなる いわ

令和2年12月 4日(金)
その2

◇ きっかけ③ 記念式典に向けた準備の経過を振り返る

「きっかけ」というのは絶妙な存在で、その「きっかけ」を境に事が善きに転じることは多々あることである。

(※事が悪しき方向に転ずる場合、「きっかけ」は使わずに「発端」や「ひきがね」を用いる。)

ただし、「きっかけ」とするかどうか、できるかどうかは、その人に委ねられる。絶妙なタイミングだと悟って「きっかけ」とするのか、ぼうっと聞き逃し、見過ごして好機を逃すかは、受け手の心持ちが大部分を占める。

幾度となく好機を逃してきた自分であるが、今回(式典に向けた準備)は違った。

<ここから パート3 (その3編) >

門柱や壁面および地タイル洗浄を行って気付いたことがいくつかある。

一つは、汚れやコケが雨で流れ落ちそうな直立する壁でもコケが付きやすい箇所があるということだ。風雨や太陽光等で塗装が劣化した箇所である。

【雨垂れ 石を穿つ (うがつ)】ともいうように、幾重に塗り重ねた塗装が剥がれた上に塗装下のコンクリートもざらつくほど傷んだ箇所がある。

ここは表面の凹凸が大きく、そのため埃やコケが付くと取れにくく、コケ繁殖の温床になりやすい。



右は、校門の左側、消火栓のある壁の修復途中(高压洗浄後・塗装途中)の写真である。黒く見えるのはコケではなく、塗装が剥がれてコンクリート地が露出しかけている部分。塗装した部分は、塗装剥離が激しく、全面補修の前に先行補修した部分。かなり傷んでいた。

校舎壁面も同様の理由がある。壁面自体にも凹凸はあるが、経年劣化による塗装剥離でコケが付きやすい状態になっているのだ。

赤色線の上部が洗浄前の状態、下部が洗浄した部分である。校舎壁面は壁面自体の劣化があるので、残念ながら、まめに洗浄するしか手はない。



二つ目は、実はコケが付きやすいのがコンクリート面であるということ。



写真は、洗淨前の学校を囲むコンクリート壁面である。草木が生える上部の法面から土が流れ落ちるせいもあるが、まともに風雨や太陽光の影響を受けるため劣化が激しく、上の写真のように垂直面でもコケは繁殖する。

下の写真は洗淨後の現在の状態である。

きれいに見えるが、コンクリート面上部の劣化は激しく、コンクリートに混ぜ合わせた小石がところどころに顔を見せるほど削られている。

対応は洗淨以外にはないが、建設当時に壁面が塗装されていれば劣化は少なかっただろうに、残念である。

コンクリート面がコケ繁殖の温床になりやすいことを受け、手を打ったのがコンクリート面の塗装である。実は、これが【補修作業・最大のヒット】となった。【善き方向への思わぬ収穫】である。



補修箇所は、正門・西門の下部、壁面の下部、側溝のコンクリート蓋などのコケが繁殖しやすい部分。この見極めは容易で、高圧洗淨機による洗淨作業の経験が生きた。 【塗装すべき箇所】 = 【洗淨で苦戦した箇所】 というわけだ。

「きっかけ」は遊具の塗装。塗装が剥げ掛かり、凹凸があるのにコケは生えない。つまり、マット感のある水性塗料ではなく、【光沢のある油性塗料】を使用すればいいということ。さらに、山田校務員が再塗装した体育館への渡り屋根の油性塗料の残りがあったこと。加えて、野中教員補助者が手伝ってくれるとの申し出。

式典まで3週を前に、3人体制でのラストスパートが始まったのである。

その3の結論

「きっかけ」をつかみ、事が好転すると、人が助けてくれる。